

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 レクリエーション支援の方法Ⅱ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター18年	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・通年	(必修 ・ 選択)
[授業の目的・ねらい] ・いろいろな場所や季節を考慮したうえで楽しみを見つけてそれを具体的に表現できる。 ・レクリエーションを実施する過程で自分の役割を果たすことができる。 [授業全体の内容の概要] 室内や屋外での様々な体験をもとに仲間と協力して人を楽しませることができる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・レクリエーション素材を場面によって上手く取り入れ、実践に応用することができる。 ・仲間と協力してレクリエーションを実施し、その効果を実感することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 春の楽しみ方を考える 2. 春を楽しむ 3. カレンダー製作 (4月～9月) 4. 自然の中で楽しむための計画をたてる 5. " 6. 自然の中で楽しむ (越後丘陵公園) 7. " 8. " 9. 振り返り 10. 夏を楽しむレクリエーションを考える 11. 夏を楽しむ 12. レクリエーションを考える 13. レクリエーションを考える 14. 後輩にレクリエーションを披露する 15. 振り返り		1. カレンダー製作 (10月～3月) 2. 体を動かすレクリエーション 3. 公園で自然を感じる 4. 公園で探してきたもので作る 5. 秋を楽しむレクリエーションを考える 6. 秋を楽しむ 7. クリスマスパーティーを計画する 8. クリスマスの飾りつけを考える 9. クリスマスグッズを考える 10. クリスマスを楽しむスイーツを作る 11. クリスマスパーティー 12. 認知症高齢者のためのレクを考える 13. 発達障害の児童のためのレクを考える 14. 披露する 15. 振り返り	
[使用テキスト・参考文献]		ゲーム 204	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考查点(80%) 到達目標の修得状況を測るために、期末考查により算出する。 2. 平常点(20%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する (20%)。	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 高齢者福祉論		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター19年	
授業の回数 32回	時間数 (単位数) 60時間 (2単位)	配当学年・時期 2年・通年	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択)
<p>[授業の目的・ねらい] 我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容し、2000年より介護保険法が制定され、継続可能な社会保障制度の再構築に向けて議論、制度改革が進められている。高齢者介護の課題にくわえ格差の拡大、虐待などの問題も表面化している。高齢者に対する支援を考えるにおいて、高齢者の社会的存在と身体的理解、精神的理解して高齢者を総合的に支援する視点を持つてようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・資料を駆使しながら、高齢者福祉の現状を学び理解した上で、自分らしい生活の実現のために何が必要かを地域連携を含めて考える。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・高齢者保健福祉、介護保険、関係法規について理解し説明できる。 ・高齢者支援の具体的手法を理解し説明できる。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 少子高齢社会と社会的問題 2. 高齢者の生活 3. 高齢社会白書を読み解く 4. 高齢社会白書で問題を作る 5. 高齢者保健福祉の発展を知る 6. 高齢者保健福祉の発展をまとめる 7. 老人福祉法の概要を知る 8. 老人福祉法の重要な点を理解する 9. 高齢者雇用安定法・高齢者社会対策基本法 10. 高齢者虐待防止法・高齢者医療確保法 11. バリアフリー法・高齢者住まい法 12. 介護の基本・介護予防 13. 介護の基本・住環境 14. 認知症 15. 終末期ケア 16. 期末考査 		<ol style="list-style-type: none"> 17. 介護保険制度の目的と理念 18. 保険財政・最近の動向 19. 保険給付と介護報酬 20. 地域支援事業地域包括支援センター 21. 介護保険サービスにおける専門職の役割と実際 22. 居宅サービス 23. 施設サービス 24. 地域密着型サービス 25. 行政機関の役割 26. 地域包括支援センター 27. 社会福祉協議会 28. ボランティア団体・非営利民間活動 29. 高齢者支援の方法と実際 30. 専門職の役割と実際 31. 事例検討 32. 期末考査 	
[使用テキスト・参考文献]		中央法規出版 高齢者に対する支援と介護保険制度	
[単位認定の方法及び基準]		<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 考查点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する。価値する (10%)。 	

授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 児童家庭福祉論		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)		
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談、サービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。		
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年・前・後期	(<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択)	
[授業の目的・ねらい] ・最近の子どもや家庭を取り巻く環境について理解する ・児童福祉や権利保障の歴史をふまえ、我が国の児童家庭福祉施策の全体像を理解する ・多岐に渡る児童に関する法律や制度を把握し理解する ・様々な問題に対応する児童相談所や市町村の対応について理解する ・社会的養護としての児童福祉施設・里親について理解する [授業全体の内容の概要] ・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・少子化の動向や虐待の件数に関しては、国の資料等を検索し把握する。児童福祉関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う ・児童福祉施設、児童虐待、DV、里親制度等に関しては、補助資料としてDVDを視聴し、理解を深める [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・子どもや家庭を取り巻く現状や課題(貧困・虐待・DV等)について説明できる ・我が国や諸外国における児童関連法規、児童福祉施策や権利保障について説明できる ・児童相談所の活動内容や役割等について説明できる ・児童福祉施設や里親制度について説明できる				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)				

<p>1. 子ども家庭を取り巻く社会情勢と生活実態について</p> <p>2. 子ども家庭福祉とは</p> <p>3. 子どもと家庭の権利保障</p> <p>4. 日本の子ども家庭福祉の歴史①</p> <p>5. 日本の子ども家庭福祉の歴史②</p> <p>6. 欧米の子ども家庭福祉の歴史</p> <p>7. 子ども家庭福祉の法体系①</p> <p>8. 子ども家庭福祉の法体系②</p> <p>9. 子ども家庭福祉の法体系③</p> <p>10. 子ども家庭福祉の法体系④</p> <p>11. 改正『児童福祉法』について</p> <p>12. 子ども家庭福祉の実施体制①</p> <p>13. 子ども家庭福祉の実施体制②</p> <p>14. 児童福祉施設の体系について</p> <p>15. 母子保健・医療サービス</p> <p>期末考査</p>	<p>17. 子育て支援と子どもの健全育成</p> <p>18. 少子化対策の動向</p> <p>19. 子どもの健全育成施策・保育サービスについて</p> <p>20. 子ども・子育て新制度における子ども・子育て支援について</p> <p>21. ひとり親家庭への福祉サービス</p> <p>22. ドメスティックバイオレンスの現状</p> <p>23. 子どもの社会的養護</p> <p>24. 児童虐待の現状</p> <p>25. 児童虐待への対応</p> <p>26. 児童虐待・DVに関する動画の視聴</p> <p>27. 障害のある子どもと家庭への福祉サービス</p> <p>28. 情緒・非行問題のある子どもと家庭への福祉サービス</p> <p>29. 非行問題のある子どもの現状と対応</p> <p>30. スクールソーシャルワーカーについて</p> <p>期末考査</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>・千葉喜久也著 『児童・家庭福祉論』 株式会社みらい 2015年4月1日発行 価格：2,200円＋税 ISBN978-4-86015-358-8</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%)</p> <p>・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <p>・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する(10%)</p> <p>・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する(5%)</p>